

大陸第九百七十二號

令

一、第三十二號陸軍司令部序列ヲ令シ且之ヲ大本營直屬トス

陸軍序列別冊ノ如シ

二、四部軍司令官ハ別紙第一項ノ部隊ヲ第三十二號司令部ノ轄下ニ  
入ラシムヘシ

三、關東軍司令部官立職員官制官ハ別紙第二項、第三項ノ部隊ヲ夫々

兩四諸島方面ニ配置シ第三十二號司令部ノ轄下ニ入ラシムヘシ

四、線島轉移ノ時ハ四月一日等時トス

但シ第三項ノ部隊ニアリテハ如前又ハ内地陸軍に歸ノ時トス

五、補項ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

2

59

昭和十九年三月二十二日

2

59

昭和十九年三月二十二日



特設警備第二百九中隊

(第四十六師團長)

特設警備第二百十中隊

(第四十六師團長)

特設警備第二百二十六中隊

(留守第六師團長)

特設警備第二百二十七中隊

(留守第六師團長)

船俘陸軍病院

(留守第四師團長)

三、關東軍總司令官ノ轄下ヨリ除キ第三十二軍司令官ノ轄下ニ入ラ

シムル部隊

(第二航空軍司令官)

✓ 第十九航空地區司令部

(第二航空軍司令官)

✓ 第五十飛行場大隊

(第二航空軍司令官)

✓ 第二百五飛行場大隊

(第四飛行師團長)

第三飛行場中隊

(第四飛行師團長)

三、第三十二軍司令官ノ轄下ニ入ラシムル部隊

要塞建築勤務第六中隊

(留守第六師團長)

要塞建築勤務第七中隊

(留守第五十六師團長)

要塞建築勤務第八中隊

(留守第五十六師團長)

「註」 下段括弧内ハ動員又ハ編成管理百ヲ示ス



命令

一、大平官ハ皇土附陸ノ防備強化ヲ企圖ス  
 二、第三十二軍司令官ハ海軍ト協同シ速ニ作戰準備ヲ強化シテ南四  
 諸島ノ防備ニ任スヘシ  
 三、臺灣軍司令官ハ海軍ト協同シ速ニ作戰準備ヲ強化シテ臺灣ノ防  
 備ニ任スヘシ  
 四、防備總司令官ノ防備擔任地域及第三十二軍、臺灣軍、第十四軍  
 間ノ作戰地域ノ境界左ノ如シ  
 防備總司令官ノ防備擔任地域、第三十二軍間  
 北緯三十度十分

第三十二軍、臺灣軍間  
 東經百二十二度三十分  
 臺灣軍、第十四軍間  
 北緯二十度十分  
 五、四師團司令官及臺灣軍司令官ハ第三十二軍ノ兵站ヲ援助スヘシ  
 六、畑坂ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年三月二十二日

大陸命第九百七十五號

命令

一、左ノ部隊ヲ第三十二管區司令部ニ編入ス

第八十五兵站司令部 留守第五十六師團司令部

二、留守第五十六師團司令部ハ第一軍ノ部隊ヲ南滿洲島ニ派遣シ第三十二

二軍司令部ノ隷下ニ入ラシムヘシ

三、旅順移ノ時ハ第一軍ノ部隊ノ九州ニ駐留ノ時トス

四、細則ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年三月二十三日

大陸命第九百八十一號

命令

一、別紙ノ部隊ヲ二方面軍、第三十二軍、第三航空軍、第四航空

軍、第五航空軍及編隊序列、第一航空軍、第二航空軍ノ編制、第一

一飛行師團、第九飛行師團、第十飛行師團編制及第十四軍直轄

航空隊係部隊ニ次々編入ス

二、第一航空軍司令部官及編成管理官ハ別紙ノ部隊ヲ新所屬指揮官ノ

隷下ニ入ラシムヘシ

三、編成轉移ノ時ハ編成完結ノ時又ハ内地陸海空機出發ノ時トス

四、細則ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年三月十日

第二方面軍司令部 附入スル部隊

第四野戰飛行場設定司令部

(陸軍航空本部長)

第二百二十三、第二百二十四野戰飛行場設定隊

(陸軍航空本部長)

第二百二十五、第二百二十六野戰飛行場設定隊

(陸軍航空本部長)

第三十二軍司令部 附入スル部隊

第二百二十八野戰飛行場設定隊

(陸軍航空本部長)

第七十五飛行中隊

(第五十一野戰飛行中隊長)

第三航空軍司令部 附入スル部隊

第二百二十七野戰飛行場設定隊

(陸軍航空本部長)

第二十四、第二十五航空基地司令部

(第三航空軍司令部)

第三十一乃至第三十三航空基地隊

(第三航空軍司令部)



大陸部第千一號

命令

一、別紙第一、第二ノ部隊ヲ天々第三十二組、該海軍部編序列ニ  
入ス

二、別紙第三ノ部隊ヲ東京海軍司令部管轄下ノ第二海軍部編成ニ  
入ス

三、編成管理官ハ別紙第一ノ部隊（第三十二組）司令官ノ管理スル  
隊ヲ除ク）ヲ兩西諸島方面ニ派遣シ第三十二組司令官ノ管轄下ニ  
入ラシムヘシ

四、該編成ノ時機ハ編成完結ノ時トス  
但シ別紙第一ノ部隊（第三十二組）司令官ノ管轄スル部隊ニ  
（

8

2

ニ在リテハ現地港内航者ノトス  
五、細路ニ關シテハ各課長ニ指示セシム

昭和十九年五月三日

第三十二軍機關序列ニ編入スル部隊

- 獨立混成第四十四旅團
  - 獨立混成第五十九旅團
  - 獨立混成第二十一旅團
  - 獨立高射砲第二十七大隊
  - 第三十二軍通信隊
  - 第三十二軍兵器勤務隊
  - 沖繩陸軍病院
  - 徳之島陸軍病院
  - 宮古島陸軍病院
  - 註 下級施設内ハ編成管理官ヲ示ス
- (留守第五師團長)
  - (西部軍司令官)
  - (第三十二軍司令官)
  - (西部軍司令官)
  - (第三十二軍司令官)
  - (留守第五十四師團長)
  - (第四十四師團長)

大陸命第千三號

命令

- 一、第三十二軍ヲ西部軍司令官ノ部下ニ入ラシム
- 二、東部軍、中部軍、西部軍及第十飛行師團、第十八飛行團、第十九飛行団ヲ防衛總司令官ノ部下ニ入ラシム
- 三、防衛總司令官ノ防衛ニ關シ第一航空軍司令官ヲ、又大陸命第六百三十九號命令ノ地域以外ノ駐紮ノ防衛ニシテ陸軍司令官ヲ指揮スルコト取ノ如シ
- 四、機關轉移ノ時機ハ五月十日零時トス
- 五、細項ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年五月五日

天陸命第千四號

命

令

一 大本營ハ皇土ノ防衛ヲ強化ス

二 防衛總司令官ハ海軍ト協同シ進ニ戦艦ヲ船化シ且ニ早撃シテ皇

土ノ防衛ニ任スヘシ

(一) 敵ノ空襲破壊ヲ防衛ノ第一要トシ主トシテ本土ノ要域ヲ掩護

ス

(二) 離島及本土沿岸要域ノ防衛ヲ強化シ敵ノ侵攻ニ方リテハ必

失セス之ヲ擊排ス

(三) 海上交通線保護ニ關シ急シテ傳ル限リ海軍ニ要ス

(四) 空襲等ニ伴フ各種實施ノ準備ニ迅速ナカラム

10  
12

一 防東區司令官ハ第一隊ニ率シ福泉州ノ防ニ付スヘシ  
 二 防東區司令官ハ不經第六日三十九號ノ地取ノ防備取ニ率シ  
 對スル作戰準備ニ付シ現任ヲ履行スヘシ  
 三 防東區司令官ノ防備擔任地取ト第五方面區ノ作戰地取トノ境界  
 ハ津輕海峽トシ津輕海峽及青森縣ニ於ケルニ於テ安藝地帯ハ第五  
 方面區ニ屬ス  
 四 防東區司令官ノ防備擔任地取ト空母區ノ作戰地取トノ境界ハ東  
 經白二十三度三十分ノ線トス  
 五 昭和十八年度以前帝國陸軍區土防備訓令ハ之ヲ廢止ス  
 六 防東區ニ付シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年五月五日



大陸命第千二十四號

命令

一、別紙ノ部隊ヲ一、航空軍ノ編制、第三十二區、第四航空軍ノ各  
 戰術序列及編制ヲ訂部團、第七飛行部團、第九飛行部團ノ各  
 合ニ夫々編入ス

二、各編成官連官ハ前項ノ部隊ヲ夫々新所屬指揮官ノ部下ニ入ラシ  
 ムヘシ

三、隸屬轉移ノ時渡ハ夫々内地港灣（飛行場）出發ノ時トス、但シ  
 現地ニ於テ編成スル部隊ニ在リテハ其編成完結ノ時トス

四、細項ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年六月十日

第二航空軍ノ編入スル部隊

第四航空通信司令部

(第二航空軍司令官)

第四航空軍機務序列ニ編入スル部隊

第三十七航空地區司令部

(第五十一教育飛行師團長)

第三十二軍機務序列ニ編入スル部隊

第一百五十八飛行場大隊

(第十飛行師團長)

第四飛行師團司令部ニ編入スル部隊

第三十三航空地區司令部

(第一航空軍司令官)

第三十四航空地區司令部

(第一航空軍司令官)

第三十五航空地區司令部

(第十飛行師團長)

第三十六航空地區司令部

(第十飛行師團長)

14

命令

一別紙第一ノ部隊ヲ歸東軍・第三方面軍・第三軍・第四軍・第五軍及第六軍ノ編組ヨリ除キ夫々第十四軍・第三十二軍・臺灣軍戰鬥序列ニ編入ス

二別紙第二ノ部隊ヲ第三十二軍及臺灣軍戰鬥序列ニ編入ス

三中追撃第四大隊ヲ第三十一軍戰鬥序列ヨリ除キ臺灣軍戰鬥序列ニ編入ス

四別紙第三ノ部隊ヲ第三軍・第四軍・第五軍・第六軍・第二十軍ノ編組及第十師團・第二十八師團・第百七師團ニ編入ス

五關東軍總司令官及勳員(編成)管理官ハ第一乃至第三項ノ部隊ヲ



南西諸島、臺灣及比島方面ニ派遣シ夫々防衛司令官、警備司令官及南方軍總司令官ノ轄下ニ入ラシムヘシ

六 鐵道轉移ノ時機ハ第一乃至第三項ノ部隊ニ在リテハ其内地又ハ滿

鮮港灣出發ノ時、但シ獨立混成第十五聯隊ニ在リテハ現地港灣到

着ノ時、第四項ノ部隊ニ在リテハ其編成完結ノ時トス

七 關東軍總司令官ハ大陸命第千三十五號ニヨル部隊中左ノ部隊ヲ原

駐地ニ復歸セシムヘシ

機動第二聯隊

工兵第十聯隊ノ一中隊

八 細項ニ關シテハ參謀長ヲシテ指示セシム

昭和十九年六月二十六日



一第十四軍戰團序列ニ編入スル部隊

第三方面軍戰團序列中ノ第二十八師團聯合ヨリ除ク部隊

歩兵第三十六聯隊

二第三十二軍戰團序列ニ編入スル部隊

關東軍ノ編組ヨリ除ク部隊

電信第二十七聯隊ノ一中隊

第三軍ノ編組ヨリ除ク部隊

✓第九師團 (騎兵第九聯隊・第九師團病馬收養所 缺)

第四軍ノ編組ヨリ除ク部隊

野戰重砲兵第一聯隊附 (第四軍司令官)

第五軍ノ編組ヨリ除ク部隊

獨立速射砲第七大隊 (第五十六師團長)

第六軍ノ編組ヨリ除ク部隊

獨立速射砲第三大隊 (留守第五十五師團長)

三臺灣軍戰團序列ニ編入スル部隊

第三軍ノ編組ヨリ除ク部隊

獨立速射砲第四大隊 (第五十二師團長)

「註」下段括弧内ハ動員又ハ編成管理官ヲ示ス



一 第三十二軍戰團序列ニ編入スル部隊

獨立混成第十五聯隊 (近衛第三師團長)

戰車第二十七聯隊 (戰車第二師團長)

二 臺灣軍戰團序列ニ編入スル部隊

第六十八旅團 (關東軍總司令官)

獨立混成第十六聯隊 (第四十四師團長)

獨立野砲兵第五大隊 (第十二師團長)

「註」下段括弧内ハ勤員又ハ編成管理官ヲ示ス

大國命第千四十二號

命令

一 左ノ部隊ヲ南方軍戰團序列中ノ第一通信隊編成ヨリ除キ第三十二軍戰團序列ニ編入ス

獨立有線第百六中隊

獨立無線第百小隊

二 左ノ部隊ヲ第一航空軍戰團序列中ノ第二航空通信隊編成ヨリ除キ

第八飛行師團司令部ニ編入ス

第二十六航空無線隊

三 左ノ部隊ヲ第四航空軍戰團序列中ノ第四飛行師團司令部ヨリ除キ

第三十二軍戰團序列ニ編入ス

第四十四飛行場大隊

第五十六飛行場大隊

第六十九飛行場大隊

第八野戰航空修理廠ノ第一、第三獨立修理廠

第九野戰航空修理廠ノ第二獨立整備隊

四左ノ部隊ヲ第二航空軍ノ編組ヨリ除キ第八飛行師團編合ニ編入ス

第二航空通信聯隊ノ無線一中隊

五關東軍總司令官ハ前各項ノ部隊ヲ大體命第千十號、第千十五號、

第千二十六號ニ拘ラス南西諸島及臺灣ニ派遣シ新所屬指揮官ノ隸

下ニ入ラシムヘシ

六該屬轉移ノ時機ハ滿洲港埠出發ノ時トス

七 陸軍ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年六月二十六日

大陸命第千四十三號

命令

一 左ノ部隊ヲ第三十二軍戰團序列ニ編入ス

第二十八師團（歩兵第三十六聯隊缺）

獨立混成第十八聯隊 留守第六師團長管理

二 左ノ部隊ヲ第四軍ノ編組ヨリ除キ第三十二軍戰團序列ニ編入ス

獨立速射砲第五大隊 第十六師團長管理

三 關東軍總司令官及編成管理官ハ第一、第二師ノ部隊ヲ夫々兩四師

島方面ニ派遣シ防衛總司令官ノ線下ニ入ラシムヘシ

四 隸屬轉移ノ時機ハ第一、第二師ノ部隊ノ編組又ハ九州港灣出

ノ時トス

大連命第千四十六號

命令

一、別紙第一ノ部隊ヲ夫々細何方面取、第四航空軍、第十四軍、支那派遣軍、第三十二軍、小笠原兵團戰團序列及用方軍戰團序列中ノ南方軍兵站部編成ニ編入ス

二、動員管理官ハ別紙第二ノ部隊ヲ比律濱南西諸島及小笠原方面ニ派遣シ夫々南方軍總司令官、防衛總司令官及小笠原兵團長ノ部下ニ入ラシムヘシ

三、兵隊屬轉移ノ時機ハ第一、項部隊ノ動員完結ノ時トス

但シ内地ニ於テ動員スル部隊ニ在リテハ本州内ニ出港ノ時トス

21

148

~~147~~  
~~148~~

四 社 員 ニ 關 シ テ ハ 參 謀 總 長 ラ シ テ 指 示 セ シ ム

昭 和 十 九 年 七 月 一 日



別表第一  
一 緬甸方面軍戰團序列ニ編入スル部隊

第二十一兵站病馬廠

(緬甸方面軍司令官)

二 第四航空軍戰團序列ニ編入スル部隊

獨立自動車第三百十六中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百十七中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百十八中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百十九中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百二十中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百二十一中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百二十二中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百二十三中隊

(第十四軍司令官)

三 第十四軍戰團序列ニ編入スル部隊

第五十七野戰道路隊

(第十四軍司令官)

第五十八野戰道路隊

(第十四軍司令官)

四 支那派遣軍戰團序列ニ編入スル部隊

第百四十二兵站病院

(支那派遣軍總司令官)

第二十兵站病馬廠

(支那派遣軍總司令官)

五 小笠原兵團戰團序列ニ編入スル部隊

註 下段括弧内ハ動員管理官ヲ示ス

第一移動兵器修理隊

(東部軍司令官)

六第三十二軍戰鬥序列ニ編入スル部隊

第二移動兵器修理隊

(東部軍司令官)

七南方軍戰鬥序列中ノ南方軍兵站編成ニ編入スル部隊

獨立自動車第三百二十六中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百二十七中隊

(第十四軍司令官)

獨立自動車第三百二十八中隊

(第十四軍司令官)

第二十九・第三十野戰防疫給水部隊

(東部軍司令官)

患者輸送第九十一・第九十二小隊

(第十四師團長)

患者輸送第九十三小隊

(第十四師團長)

第三移動兵器修理隊

(東部軍司令官)

別隊第二

- 第一、第二、第三移動兵器修繕隊 (東部軍司令官)
  - 第二十九、第三十野戰防投給本部 (東部軍司令官)
  - 患者輸送第九十一、第九十二小隊 (第四十四師團長)
  - 患者輸送第九十三小隊 (第四十四師團長)
- 「註」下段括弧内ハ動員管理官ヲ示ス

大體命第千四十八號

命令

- 一、歩兵第三十六聯隊ヲ第十四軍戰團序列ヨリ除キ第三十二軍戰團序列中ノ第二十八師團並合ニ復歸セシム
- 二、獨立混成第十八聯隊ヲ第三十二軍戰團序列ヨリ除キ第十四軍戰團序列ニ編入ス
- 三、獨立混成第五十八旅團ヲ第二方面軍戰團序列ヨリ除キ第十四軍戰團序列ニ編入ス
- 四、左ノ部隊ヲ第三十二軍戰團序列ヨリ除キ第三十二軍戰團序列ニ編入ス
  - 中迫隊第二大隊
  - 第八十六師團長官

獨立第一旅隊

中部軍司令官管理

獨立第二旅隊

中部軍司令官管理

南方軍總司令官、防衛總司令官及編成（動員）管理官ハ前諸隊

ノ部隊ヲ夫々比伴演、用四諸島方面ニ派遣シ防衛總司令官、用

方軍總司令官ノ意下ニ入ラシムヘシ

六線ヲ轉移ノ時ニハ比伴演又ハ用四諸島港再到着ノ時トス

七線現ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

昭和十九年七月四日

陸軍